

パスロジ(4426)

リモートワーク需要一段落後、企業・団体のサイバーセキュリティ強化のための新製品開発・投入が進む。

TOKYO PRO Market | アプリケーションソフトウェア | 業績フォロー

BLOOMBERG 4426:JP | REUTERS 4426.T

- 2022/6通期は売上高が前期比2.1%増、営業利益が同34.6%減、経常利益が28.7%減、当期利益が10.4%減。年間配当は実質2円の減配で19円。
- リモートワーク需要一段落後のなか製品ライセンスIDは増加傾向も、売上原価・販管費増により増収減益。来期も同様の傾向を見込む。
- 企業のサイバーセキュリティ対策に応える新製品開発・リリース継続。顧客ID数増・付加価値向上で売上増、利益率改善が期待される。

What is the news?

2022/6通期は、売上高が前期比2.1%増の4.08億円、営業利益が同34.6%減の74.3百万円、経常利益が同28.7%減の86.1百万円、当期利益が同10.4%減の76.7百万円、年間配当金は期中の株式分割調整後ベースで実質2円減額の19円。増収減益・減配にて着地した。

当社のパスロジック方式利用製品は、既存顧客の追加案件や新規案件の受注をうけて新規5.3万IDを獲得。22年6月末の発行ライセンス数は144万件となった。

売上原価における労務費増加により粗利率は前年同期比2.1ポイント低下の72.1%。それに加え、販管費率が同8ポイント上昇の54%へ悪化したことが減益の要因となった。

同社は新規技術の開発に力を入れており、特許取得件数は22年6月末時点で累計111件（日本国内3件）。2021年初から22年6月末までに11件の新規取得を達成。この一部は新製品の多要素認証技術に関連している。

How do we view this?

2023/6通期会社計画は、売上高が前期比4.4%増の4.26億円、営業利益が同32.7%減の49百万円、経常利益が同51.9%減の41百万円、当期純利益が同64.4%減の27百万円と増収減益を見込む。

同社は、企業・団体が直面するサイバー攻撃の脅威に対し、多要素認証などの本人認証強化技術の需要が喚起されるとする一方、原材料不足や為替相場の円安等のマクロ経済の費用増加要因を背景に、顧客企業の業績悪化等が設備投資縮小を招くことに伴う需要低下も懸念している。

これらを総合した同社の事業見通しでは、既存顧客への保守サポート、通信クラウド向けライセンス提供事業などにより売上が引き続き堅調に推移する一方、事業拡大に伴う人員採用費増加、販売促進とブランド向上のための成長に向けた広告宣伝費の増加を想定している。

リモートログインにおける多要素認証アプリである4 Loginを22年3月より提供開始。22年8月、ファイル転送や機密保持を目的とした暗号化アプリCryptan（クリプタン）ベータ版を企業・一般に向けて公開。製品の付加価値向上と顧客ID数増加があれば、更なる成長も期待できよう。

業績推移

事業年度	2020/6*	2021/6*	2022/6	2023/6F
売上高(百万円)	426	400	408	426
経常利益(百万円)	174	120	86	41
当期利益(百万円)	110	85	76	27
EPS(円)	55.15	42.83	38.39	13.69
PER(倍)	4.53	5.84	6.51	18.26
BPS(円)	148.76	180.89	196.93	-
PBR(倍)	1.68	1.38	-	-
配当(円)	27.50	21.00	19.00	-
配当利回り(%)	11.00	8.40	7.60	-

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

*21年10月5日に行われた、1株につき2株の株式分割に基づき、遡及して修正を行っている。

フィリップ証券株式会社

配当予想(円) - (会社予想)
 株価(円) 250 2022/10/26(基準値)

会社概要

2000年にワンタイムパスワードの新技术「パスロジック方式」のライセンス供与・管理を目的に設立。本人認証技術の中核とした認証セキュリティソフトウェアの開発、販売を主体とするソフトウェア事業を行っている。

2004年にパスロジック方式を活用した認証サーバソフトウェア製品「PassLogic-AS」の販売を開始。2006年には従来の技術ライセンス供与を中心とする方針を変更し、自社ソフトウェア開発メーカーとして本格的に事業展開することを決定。2007年末には複数の特許技術を活用し、パスロジック方式を2経路で認証することでセキュリティを強化した「PassLogic」の販売を開始した。2014年には大規模ユーザーにも対応可能にした後継製品「PassLogic エンタープライズ版」の販売を開始。2019/6時点、パスロジック方式利用製品の発行ライセンス数は累計144万件に上り、同社の主力製品となっている。

2018/12/19にTOKYO PRO Marketに上場した。

パスロジック方式は、小川秀治代表取締役社長が1997年に考案した「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システムであり、同システムは2000年に米国特許を取得。パスロジック方式を製品化した企業・団体向け認証セキュリティソフトウェア「PassLogic」は、ログインのたびに乱数表に記された数字がすべて刷新されるため、シークレットパターン通りに数字を抜き出せばパスワードが毎回新しいものになる仕組みとなっている。

企業データ



主要株主(2022/9/30)

株主	(%)
1.小川 秀治	66.10
2.小川 美樹子	10.00
3.小川 遥香	9.00
4.小川 穂波	9.00
5.石井 裕一郎	2.15

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

三角 友幸
 tomoyuki.misumi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707
 笹木 和弘
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 三角友幸

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser に就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。